

瓦をテーマにした日本で唯一の美術館

高浜市やきものの里

かわら美術館

高浜市教育委員会 学校経営グループ 主幹 鈴木 剛

高浜市は、生産量日本一を誇る三州瓦の中心産地である。生産が始まったのは江戸時代中ごろ、材料となる良質な粘土が豊富に採れたこと、海に面しており輸送の便に恵まれたこと、大都市で瓦葺きの家屋が増えたことなどにより、幕末から明治にかけて一大産地として発展を遂げた。この地、高浜に、「高浜市やきものの里かわら美術館」は日本で唯一の「かわら」をテーマにした美術館として、平成7年10月に開館し、今年が開館25周年を迎えることになる。日本や世界の瓦と焼き物を中心に、それらに関連した絵画や版画、浮世絵、書、写真等の美術品を収集し、常設展示や企画展とおして紹介している。また、さまざまなテーマの特別展を開催しており、瓦や



やきものの里 森前公園

やきもの、絵本原画、アール・ブリュットやサブカルチャー、平和に関する展覧会などを行っている。そのほか、館内に陶芸創作室を設置しており、やきものをつくる楽しさを味わうこともで

きる。また、ホールやスタジオも利用することができ、芸能文化活動の拠点としての役割も果たし、市民からも親しまれている。

千石船をイメージした建物

やきものの里 かわら美術館（以下かわら美術館とする）が建つこの地は、かつては海であった。ここから全国に向けて瓦を運んでいたこともあり、美術館の建物は、「千石船」をイメージしてつくられている。また、美術館の前面には、美術館建設に合わせて整備された「やきものの里 森前公園」が広がっている。こちらは、千石船が進む「海」に見立て、灰銀色の「いぶし瓦」が波を表現するように敷き詰められている。美術館そのものが美術品と



やきものの里 かわら美術館 全景

して鑑賞されることを意識して建設されているところがおもしろい。

美術品としての瓦

瓦の展示と聞くと、そこに歴史的な価値を求めがちであるが、かわら美術館では、美術品として瓦を鑑賞することをコンセプトとしている。常設展示では、中国古代から現代の瓦や白鳳時代の古代瓦、安土桃山時代の瓦などとともに鬼師（鬼瓦をつくる職人）の技が光る手作りの造形的な飾り瓦（鬼瓦）や現代の最先端技術でつくられた瓦など、古代から現代までさまざまな瓦を鑑賞することができる。

海を渡る三州瓦

近年、三州瓦は海外に輸出される機会が増え、最近では高浜・碧南地区で焼成された瓦が中国の古都、西安の大雁塔を管轄する大慈恩寺の伽藍の一部を新築する際に採用され、三州瓦が国際的にも評価された。この大雁塔は、三蔵法師（玄奘三蔵）が唐代にインドから持ち帰った経典が収められているところで、シルクロードの文化を代表する史跡である。それを管轄する現代の寺院で三州瓦が採用されたことは、三州瓦もシルクロードの文化の保存の一翼を担うと言っても過言ではない。

進化する瓦

瓦の技術は、588年に百済から招聘された4名の瓦博士によって日本へ伝えられた。以来、屋根を覆う瓦は、風雨から家を守る機能性とともに装飾性を求められ進化してきた。不燃性の瓦は、木造建築の多い日本において火災延焼を防ぐ役割も担っていたため、鯨、菊水、波、雲など水や雨を連想させる造形が多く見られる。また、厄除けとして鬼や鍾馗、福を招く七福神、長寿の象徴である鶴や亀、途切れることなく続く子孫繁栄を意味する蔓草や雲流など、人々の願いが形となった飾り瓦がたくさんあり、地域の屋根を彩っている。近年では、地震や台風など災害に対応した「防災瓦」が製品化されている。軽量で施工時に瓦同士が噛み合う構造をもち、地震や台風など



屋根を彩る飾り瓦（鬼瓦）

の自然災害に強い固定力をもっている。また瓦の材料や製法を用いて食器や表札等がつくられ、普及しているところでもある。

鬼みち&鬼みちまつり

市内には歩ける道「鬼みち」がある。平成8年から国のウォーキングトレイル事業によって整備され、平成16年には、「美しい日本の歩きたくなる道500選」に選ばれた。名鉄高浜港駅より三河高浜駅までの約4キロメートルのコースに、飾り瓦や鬼瓦、瓦の材料や製法を用いたミニユメント等が配置され、「かわらのまち 高浜」を感じることができるとなっている。また、ぜひ足を運んでいただきたい。また、毎年、「鬼みちまつり」が開催されている。高浜の文化的シンボルである瓦の歴史やそれを肌で感じることでできる鬼みちを拠点として、郷土の個性や自然からつくられる情緒を再認識するために始められたイベントである。毎年、多くの人が訪れ、賑わいを見せている。「鬼みちまつり」に向け、市内の園児、小・中・高校生が瓦粘土を使って鬼あかり（陶製ランプシェード）を制作し、鬼みち沿道を飾っている。子どもたちは、鬼師やかわら美術館の指導員からの指導を受け、思い思

いの鬼あかりをつくっている。日没近くになると鬼あかりに蠟燭がともされ、幻想的な風景を味わうことができる。



鬼あかり制作の様子



鬼あかり点灯

開館25周年を迎えて

今年度、高浜市は市制50周年を迎え、かわら美術館は開館25周年を迎える。かわら美術館では、学校団体向け美術館利用の仕組みが整えられており、利



【やきものの里 かわら美術館】月・火曜日休館

高浜市青木町九丁目6番地18
Tel.0566-52-3366

